

所 報

たまじむ

平成24年2月29日

第 3 号

東京都多摩教育事務所

〔東京都立川市錦町6-3-1〕

Tel 042-524-7137

Fax 042-528-0985

論理的思考力・表現力を育むために

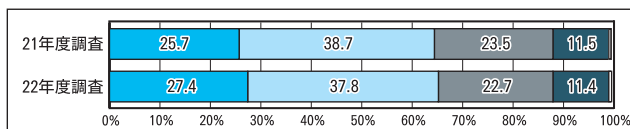
これからのグローバル化社会及び国際化社会においては、様々な国籍、世代の人たちと共に生活していくこととなります。そのような社会においては、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事を多様な観点から考察する力、様々な情報を取捨選択できる力などを身に付けることにより、世界の人々と豊かに交流することにつながっていきます。

平成21年に実施されたPISA調査の結果においては、読解力について、必要な情報を見付け出し取り出すことは得意であるものの、情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることが苦手であると指摘されています。また、平成21・22年度全国学力・学習状況調査では、資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること、日常的な事象について、筋道を立てて考え、数学的に表現することなどに課題が見られました。

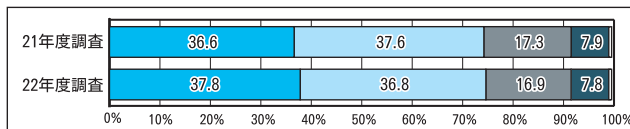
以上から、「相手が理解できるように、筋道を立てて考え、分かりやすく表現し、問題を解決していく力」すなわち「論理的思考力・表現力」が求められているといえます。「論理的思考力・表現力」を育むためには、事実等を正確に理解した後、それを自分の知識や経験と結び付けて解釈することによって自分の考えをもつこと、さらにその自分の考えについて、理由や立場を明確にして説明することなどを通じて、自分の考えを深めていく学習を、各教科等において学校教育全体を通じて推進していくことが極めて重要です。

質問51：学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりするのは難しいと思いますか。

小学校



中学校



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない
■ その他 □ 無回答

「平成21・22年度 全国学力・学習状況調査結果」

目 次

【巻頭言】 論理的思考力・表現力を育むために	1
【特集】 論理的思考力・表現力の育成 ～クリティカル・シンキングを通して～	2～3
【研修】 小・中学校における日本の伝統文化・理解教育の推進	4～5
【研修】 学校サポートチームの連携を効果的に進めるために	6～7
【情報】 東京都多摩地区教育推進委員会報告会を開催しました！	8

論理的思考力・表現力の育成 ―クリティカル・シンキングを通して―

問題解決的な学習において、児童・生徒一人一人が筋道を立てて考え、十分に発想を広げることにより見方を広げ、自己の考えを深めていくことが大切です。見方を広げ、考えを深めるためには、事実等を正確に理解した後、自己や他者の考えが本当に正しいか、その妥当性や信頼性を検証する「クリティカル・シンキング」を取り入れることが重要です。

今回は、児童・生徒一人一人が事実等を多面的・多角的に考察し、「クリティカル・シンキング」を通して論理的思考力・表現力を高めていく指導のポイントについて特集します。

クリティカル・シンキング

批判的思考とも呼ばれ、他者の考えを認識しつつ自己の考えについて前提条件やその適用範囲などを振り返るとともに、他者の考えと比較、分類、関連付けなどを行うことで、多様な視点からその妥当性や信頼性を吟味し、考えを深めることです。

<ポイント>

- ・目標や課題を意識する
- ・多面的な視点で考える
- ・事実と意見を区別する
- ・根拠を吟味する
- ・論理的な考えで整理する

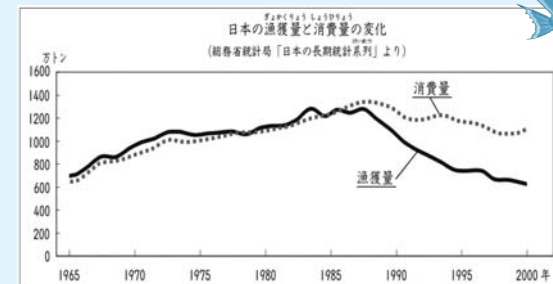
目標を設定する

- 目標を設定し追究の視点を明確にします。
- 設定した視点に応じて事実から情報を適切に取り出すようにします。
- 問題解決的な学習過程を設定し、児童・生徒に解決に向けた意識をもつようにします。

実践事例：小学校 第5学年 社会科「私たちの暮らしを支える水産業」

資料を基に解決する課題を見出す

日本の漁獲量は、全体的に少なくなっている。
私たちの食料を確保するためには、今後我が国は、どうすればよいのか？



論理的に自己の考えをもつ

- 事実等を知識や経験と結び付けて解釈し、自分の考えをもつようにします。
- 自分の考えについて、探究的態度をもって事実と意見、原因と結果などの関係を意識し、明確に説明します。
- 多様な情報を取り出し、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして振り返るようにします。

様々な視点から自己の考えを捉え直す

- 意見交換等で色々な考えや意見があることに気付くことができるようにします。
- 考えには根拠や前提条件に違いや特徴があることに気付くことができるようにします。
- それぞれの考えの異同を整理し、自分の考えや他者の考えを様々な視点から多面的に捉えることができるようにします。

様々な情報から筋道を立てて、論理的に自己の考えをもつ

魚の漁獲量は近年減少してきている。

漁獲量と消費量に差があるのに魚が不足していない。

魚の消費量はここ数年大きな変化はない。

事実認識
(比較・関連・総合)

日本は、魚を外国から輸入しているかもしれない。

自己の考え

だから

日本は、外国とのつながりを大切にする必要がある。

公正な判断

妥当性・信頼性のある考えを表現する

多様な考えから妥当性・信頼性のある考えを導き出し、表現する

妥当性・信頼性のある考えを論理的、批判的に導き出し、表現する際にも発表やレポートなどで他者に分かりやすく表現することが重要です。



日本は、外国とのつながりを大切にする必要があります。(結論)
なぜなら、漁獲量が減っているけど消費量が減っていないということは、魚を外国から輸入していることによりまかなわれていると考えからです。(根拠)

意見交換等により様々な視点から考え、自己の考えを捉え直す

友達の考え

漁業はもうやめて、他の産業に力を入れたほうがいいよ。

考えの捉え直し

【根拠の明確化】
漁業を本当にやめてしまっているのかな？ 理由は何？

教師の支援

様々な食料の消費量を調べてそこに占める魚の消費の割合を探してみましょう
消費者の立場から

【根拠の比較】
本当にそうかな？
日本の産業に占める漁業の割合と比べた？

【根拠情報の量】
本当に養殖だけでまかなっているのかな？
データが少なすぎないかな？

水産業の中の養殖業の割合を調べてみましょう
水産業の内訳から

クリティカル・シンキングによって自己の考えを捉え直し、より深めることにより、論理的思考力・表現力の育成につながります。

〈授業力向上シリーズ3〉

小・中学校における日本の伝統・文化理解教育の推進

近年、家庭や地域社会において子供たちが日本の伝統・文化に触れたり経験したりする機会が減っていると言われています。そこで今、子供たちが日本の伝統・文化の価値や意義を理解するとともに、自分の生まれ育った郷土に誇りと愛着をもち、自分が地域の一員として伝統・文化を継承していく心を育て、日本人であるというアイデンティティを確立する教育を推進していくことが必要です。

各学校においては、日本の伝統・文化理解教育のねらいを明確にし、実現できるよう、家庭・地域社会と連携を図りながら、学校の教育活動全体で計画的な指導を展開することが大切です。本ページでは、日本の伝統・文化理解教育を推進するための視点と実際の指導について特集します。

目 標

国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養うとともに、
多様な文化を尊重できる態度や資質を育む教育を推進する。

目指す児童・生徒像

- 自分の身近な地域や自国の伝統・文化の価値を理解し、誇りに思える児童・生徒
- 自国の伝統・文化を世界に発信できる資質や能力をもった児童・生徒
- 他国の伝統・文化を理解し尊重するとともにお互いに文化交流ができる児童・生徒

推進の視点

日本の伝統・文化理解教育の推進のためには次の5つの視点が大切です。

今回は特に各教科等との関連を中心にした指導事例について紹介します。

①学校全体での取組

- 推進者養成研修や校内研修等の実施
- 各学校の特色に応じた全体計画の作成
- 家庭や地域社会との連携

②各教科等との関連

- 各教科等の指導内容の抽出
- 各教科等の指導内容の実施時期と方法、相互の関連の考慮
- 取り上げる伝統・文化の特質に応じて関連する学習を効果的に組み合わせた実施

③学習過程の工夫

- 衣食住や遊びなど、身近な題材の活用
- 現代の文化についての学習

④実生活との関わり

- 伝統・文化の発生と継承についての考察
- 現在の自分の生活との関わりについての考察

⑤体験的な学習の充実

- 実感の伴った伝統・文化の理解
- 外部講師、地域等の様々な施設を活用

実際の指導では

伝統・文化の継承への気付きと郷土愛

【小学校第6学年：「地域に伝わる歌舞伎」を扱った事例】

道徳 資料「もうひとつの塔」4-(7) 先人の苦労や努力

- 薬師寺西塔の再建について苦心した話について考え、昔から伝わる優れた技術を守り、後世に伝えていく思いに触れ、そこで自分たちの地域の歌舞伎についての体験を想起し自己の生き方を見つめ直す。

総合的な学習の時間

「地域に伝わる歌舞伎のひみつを探ろう」

- 【ねらい】・地域の伝統芸能を知りその一端を体験することで、地域文化への理解を深め郷土に対する愛着を育てる。
・地域の伝統・文化に触れ、自分の生活を豊かにすることができる。

【活 動】

第1次

「地域に伝わる伝統・文化について知る」

- 地域の文化について話し合う。
- 地域の歌舞伎を体験する。
- 体験した歌舞伎について話し合う。

私たちの地域では、どうして歌舞伎が生まれ、今に伝わっているのかな。

江戸の人たちも歌舞伎を楽しんでいたんだよね。

歌舞伎にはいろいろな和楽器が使われていたね。演奏してみたいな。

- 学習問題をつくる。
- 「歌舞伎はなぜ今に伝わっているのだろうか。」

伝統・文化への興味・関心

音楽科 「日本の伝統的な音楽を楽しもう」

- 和楽器や民謡
- ・歌舞伎で使われていた楽器を想起し、和楽器「三味線」「太鼓」等について楽器の特徴を意識しながら演奏し日本の音楽の伝統的なリズムを感じる。
- ・地域に伝承されているわらべうたや民謡を歌ったり、人々に長く親しまれている音楽を鑑賞したりして伝統的な音楽について関心を深める。



伝統・文化についての理解

社会科 「江戸の町と歌舞伎を楽しむ人々」

- 町人文化
- ・江戸幕府が政治を行った時代の町人の文化に興味をもつ。
- ・歌舞伎を楽しむ人々が増え、なぜ歌舞伎が庶民の間に広まったのか調べる。

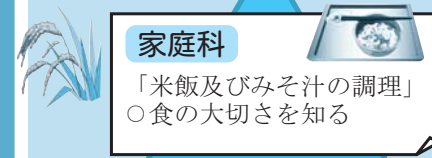
【小学校第5学年：「食文化」を扱った事例】

特別活動

- 「児童会活動・委員会活動」
- 飼育栽培

家庭科

- 「米飯及びみそ汁の調理」
- 食の大切さを知る



社会科

- 「我が国の農業や水産業」
- 我が国の農業

理科

- 「生命のつながり植物の発芽」
- 生命・成長の喜び

【中学校：「毛筆」を扱った事例】

社会科

- 「歴史的分野 地理的分野」
- 身近な地域の歴史
- 和紙や墨などの地域の特産品

国語科

- 「毛筆・席書会・書き初め」
- 引き継がれる伝統文化を体験する

技術・家庭科

- 「技術とものづくり木工等で学ぶ技術」
- 生活や産業の中で果たしている役割

美術科

- 「表現 毛筆文字の美しさ表現法」
- 表現形式や新たな表現法など創造的な表現

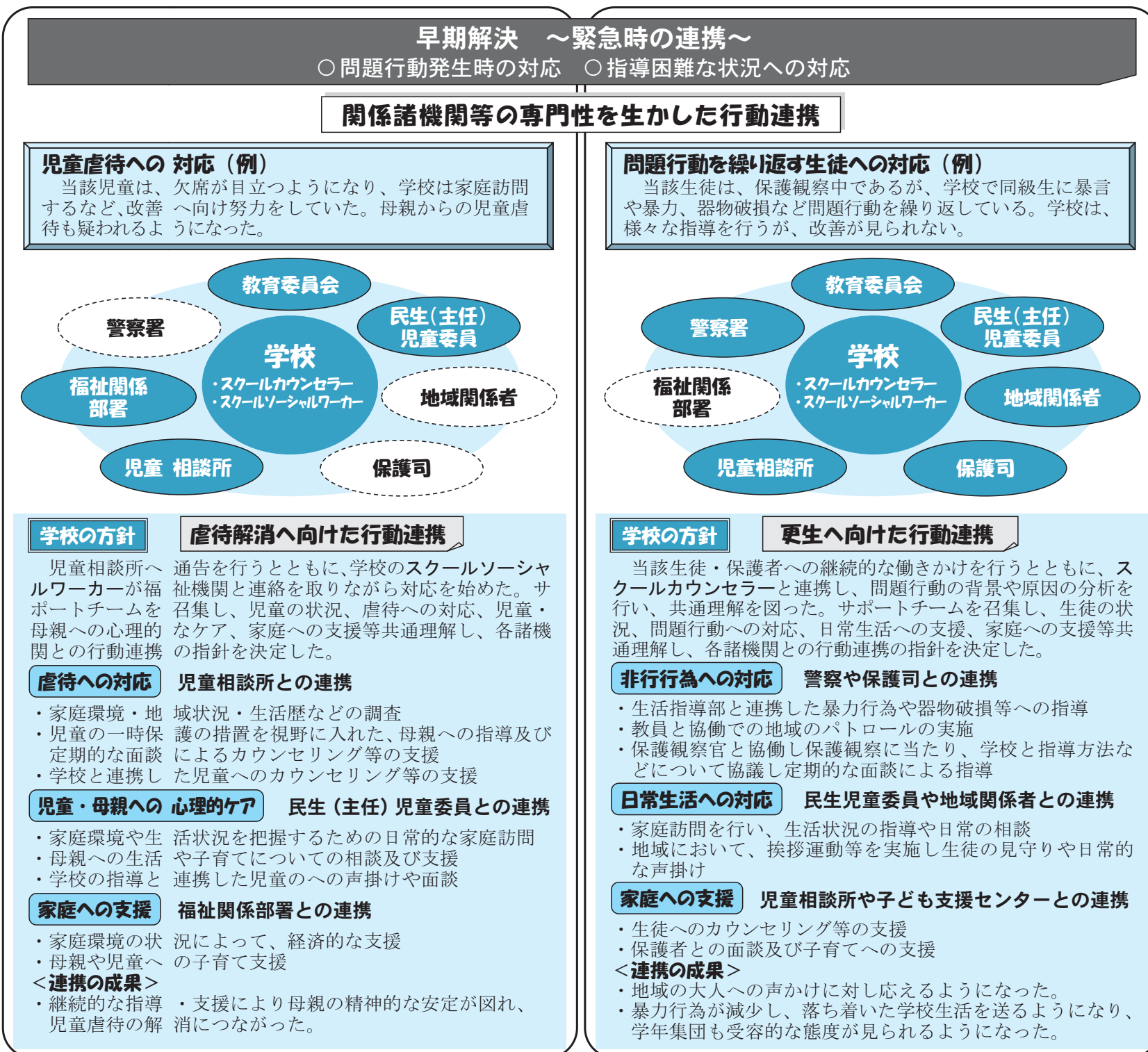
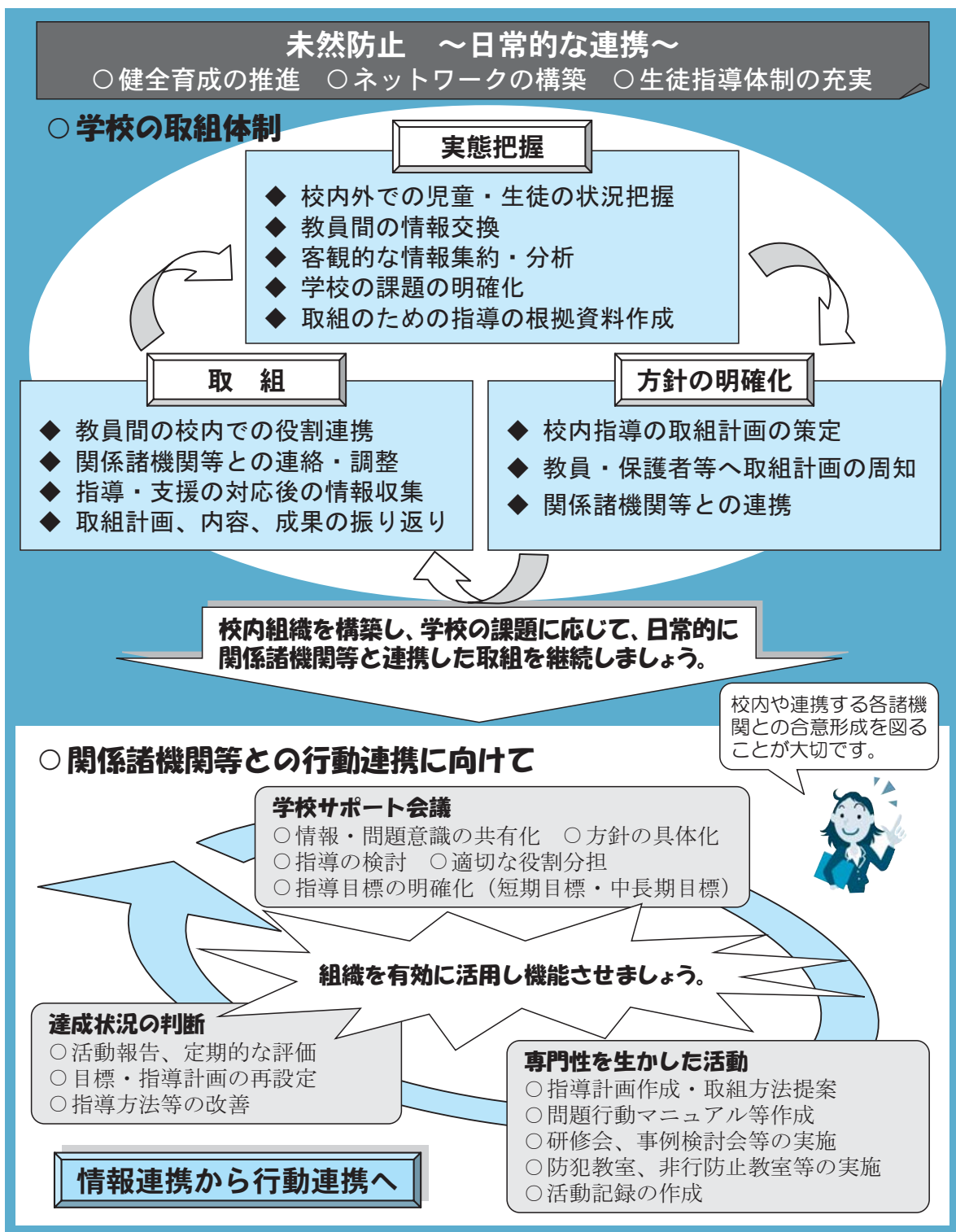


〈健全育成シリーズ3〉

学校サポートチームの連携を効果的に進めるために

児童・生徒の問題行動の多様化、複雑化する中、学校だけでは解決できない事例に対応していくため、学校サポートチームは、東京都の公立小・中学校の全校に設置されました。学校と関係諸機関等が一体となりサポート体制を構築し、諸問題に対して、各機関の専門性を生かした多様な指導や支援を組織的に行うことが必要です。学校の健全育成上の課題を明確にして、関係諸機関等と日常的な連携を進めることにより、問題行動の未然防止につながるとともに、緊急時においても組織が円滑に機能し、早期解決につながります。

今回は、学校サポートチームの活用について特集します。



参考資料：生徒指導の役割連携の推進に向けて 平成22年 3 月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
学校と関係機関等との行動連携を一層推進するために 学校と関係機関との行動連携に関する研究会

学校と関係機関等との連携～学校を支える日々の連携～ 平成23年3月 国立教育政策研究所生徒指導研究センター
学校サポートチームによる健全育成の推進 平成22年3月 東京都教育委員会

東京都多摩地区教育推進委員会報告会を開催しました！

〈研究主題〉 コミュニケーションの充実を図る教育活動の推進

—協同的な関係を築き、集団としての学習力を高めるために—

平成24年2月9日（木）に、多摩教育センターホールで開催した今回の会には、公立・私立学校の教員、大学関係者、教育行政関係者等、約450名の参加がありました。

今年度は、コミュニケーションを言葉による意味や感情をやりとりする行為と捉え、学校における日頃からのコミュニケーションを充実させることにより、児童・生徒同士の協同的な関係が育まれ、集団としての学習力を高めていくことができると考えました。そこで、授業と授業以外の日常的な生活場面の両方の視点から、「学習コミュニケーション部会」、「生活コミュニケーション部会」の二つの部会を構成し、研究を進め、実践を通して成果を分析・考察することにより、次の点が明らかとなりました。

学習コミュニケーションの充実

- ◆ 学習集団の状態を分析し、その状態に応じた適切な手だてを講じていくことが、児童・生徒同士の関係性をより強めるとともに、主体的な学習態度につながるなど、教科等のねらいを達成するために効果的でした。
- ◆ 「集団と「個」という二つの視点を明確にした授業づくりを進めてきたことで、多様な考えから集団の考えを発展させ、課題解決を図るとともに、児童・生徒の一人一人が自己の考えを再構築することができ、教科等のねらいに迫ることができました。

生活コミュニケーションの充実

- ◆ 児童・生徒相互の人間関係をより高めていくためには、生活場面のねらいを明確にし、そのねらいに即して育てたい人間関係を形成するためのコミュニケーションを図る活動を意図的・計画的に設定することが大切です。
- ◆ 学校生活全般を通して、各教科等との関連を図りながら生活場面における活動を意図的・継続的に行っていくことにより、一人一人の児童・生徒にコミュニケーションの力を身に付けることができました。

講 評 日本教育大学院大学客員教授・元お茶の水女子大学教授 村松 賢一 先生

1 「報告」に学ぶ

コミュニケーションには情意的領域と論理的領域がある。コミュニケーション能力の育成に当たっては、そのバランスをとることが重要である。その点、本研究が「生活」場面と「学習」場面を総合的に捉え、指導の手だてを具体的に提案されたことを高く評価したい。特に、制度的な区分にとらわれず、「学習」集団、「学級」集団の育ち具合に応じた対応策を具体的な実践事例を交えて示された点は、現場の教師にとって有益なことではないかと思う。理論的にも、「学習」コミュニケーションの「指導ポイント」の体系的な整理は、今後のコミュニケーション教育論議を大きく前進させるものと信じる。



2 今後の課題

コミュニケーション能力は多様なコミュニケーションを経験する中でしか身に付かない。ただ、同時に、コミュニケーションの価値や仕組みなどを学び、コミュニケーションリテラシーを高めることも極めて重要である。もう一点強調したいのは、「話すこと・聞くこと」を取り立てた指導を、短時間でよいので継続的に（週1回程度）積み重ねることである。実際、朝の時間などを活用して全学年で対話学習を実施し、目覚しい成果を上げている例がある。なお、その際は、自らの言語活動を二次教材として、言葉の使い方や相手の言葉の受け方、返し方などを振り返るメタ学習が最も効果的である。ぜひ、挑戦していただきたい。

- ◆ 研究報告書については、各学校に配布されるとともに、東京都多摩教育事務所ホームページからダウンロードできます。「コミュニケーションの充実を図った授業づくり」、「日常の生活場面における指導の工夫」などについて、校内研修会等で、御活用ください。また、「出前報告会」として多摩教育事務所の指導主事が報告を行わせていただきます。ぜひ、お役立てください。